

ボランティア活動の参考に

●マッサージ師と鍼灸師の連携

得意な分野の異なる治療家同士が居合わせたなら、それは幸運です。私たちの現場では、マッサージ師たちが避難所の中を広くまわってニーズを拾い、鍼が向きそうな患者さんには鍼灸師を紹介するという、非常に良い連携がとれておりました。特に、鍼灸スペースで患者を待つのではなく、積極的に所内を回るマッサージ師は、避難所の中の様々な問題点に気づきやすく、これを保健師へ報告することにより、避難所の生活環境を整える役割の点でも貴重な働きを担いました。さらに、忙しい職員への施術は、わざわざ鍼灸治療スペースに来てもらうのではなく、それぞれ仕事をしている椅子に座ったまま、マッサージ師たちが肩をもんで周る、という方法が非常に好評でした。

●視覚障害のある施術者

私たちのチームでは、視覚障害をお持ちの施術者は学生ボランティア等とペアで活動しております。施術者は施術に専念でき、学生は血圧測定や記録などの補助をしつつ施術を見学できるシステムです。被災地の環境（アクセスやライフラインなど）が整えば、障害の有無にかかわらず活動できることがこれまでも示されています。鍼灸師も、マッサージ師も、学生も、それぞれが皆、大切な役割を果たすことができるのです。

●地元治療院への配慮

現在、ボランティアの私たちが治療にあたっている方たちは、いずれは地元の先生方の患者さんになるでしょう。避難所をはじめとした活動地では鍼灸マッサージを初めて受けたという地元の方が圧倒的に多く、異口同音に「こんなに良いものを、なぜ早く知らなかったのだろう」と仰っていただいております。

こうした方々を地元の治療院につないでいくことが、当団体の目的の一つであり、被災地の方々の健康管理への貢献であると考えております。但し、地元の先生方も被災者であることも多いため、事前にきちんと確認を取るなど、無理のない紹介方法が求められます。

2011/05/27 作成 2023/02/28 改訂
災害鍼灸マッサージプロジェクト